

三〇後御出家の御師のことは、この次に仰せおかるべくや候らんと申たりければ、こはいかに二宮東宮にたゝんずる人をばと勅答ありけるをきゝて、さてはけふその御さた候はで、いつかは候べきと申たりければ、まことにおもひわすれてやまひ重くてとおほせられて、宇治殿めし返して、讓位の宣命に皇太子のよしのせられにけり、能信をば閑院東宮の大夫とぞ申、この申やうこそふかしぎなれと人おもへり、白河院〇後三のつねに能信をば故春宮大夫殿おはせずば、我身はかゝる運もあらましやと仰られけるには、かならず殿の字を付ておほせられけりやんことなきことなり、

〔續世繼二御法の師〕東宮三後におはしましける時、よのへだて多くおはしましければ、あやふくおぼしけるに、檢非違使の別當にて經成と云し人、なほしにかまはばさみにて、やなぐひおひて中門廊にゐたりける日は、いかなることの出きぬるぞとて、宮の内の女房より始めて隠れさわぎけるとかや、おはしましける所は二條東洞院なりければ、其わたりを軍のうちめぐりてつゝみたりければ、かゝる事こそ侍れなぞ申あへりける程に、別當のまゐりたりければ、東宮も御直衣奉りなぞして御ようい有けるに、別當檢非違使めして、をかしの物はめしとりたりやと問れば、既にめして侍りと云ければこそ、どもかくも申さでまかり出られけれ、おもくあやまちけるもの、おはします近きあたりに籠りゐたりければ、うちつゝみたりけるにも、し東宮ににげいる事もやあるとてまゐりたりけり、かやうにのみあやふまれ給て、東宮をもすてられやせさせ給はんずらんとおもほしけるに、殿上人にて衛門權佐ゆきちかど聞えし人の相よくするおぼえ有て、いかにも天の下まろしめすべきよし申けるかひありて、かくならびなくぞおはしましし、

〔古事談王道后宮〕後三條院春宮ノ御時、御持僧成尊僧都奉問云、北斗ノ御拜候ヤ、被仰云、毎月奉拜